3階西病棟のこの1年

3階西病棟婦長　谷　津　万　里

人は育てられたように（教育）育っていくのだという事を、私は多くの本や、教育学の講義をとうして学びましたし、又様々な場面でその事を実感してきました。

平成9年4月に、3階西病棟は3人の新人助産婦の入職がありました。新人助産婦の入職は実に5年ぶりの事でしたので、病棟としてどのような教育を、どうすすめたらよいのか、戸惑いがありましたが、プログラムを組み研修を勧めてきました。少ない要員の中では、スタッフ全員が指導者としての役割を担ってもらいました。

年間500例近い分娩を、少ないときは7～8名の助産婦で乗り切ってきた現在、12名（平成10年4月1日より13名）の助産婦の確保が出来ましたことは、院長をはじめ看護局やその他、人事に係わる方達のふかい理解と協力が無ければ、とてもこれらのマンパワーの確保は難しかったと推察されます。この誌を借りて改めてお礼を申し上げます。

助産婦は今まで、周産期のケアーが主でしたが、要員が増えてからは、小児看護にも配置出来るようになり、今後益々3階西病棟のエキスパートナーとして活躍してもらえるものと、期しています。

当院の分娩件数は、昭和59年の714例をピークに、徐々に減少を続け、平成4年からは年間10～20件、割合にして2～4%の減少傾向にあり、平成9年の分娩件数は445件でした。これは日本女性の出生率の減少に相当するもので、出生率が1.4人以下となった現在、やむを得ない事でしょう。

周産期は全てが緊急で、その管理は一言で言うなら予防に尽きます。知識を広く知らしめ、意識を高めて、妊娠期間を自己管理の出来る妊婦を育てる事が大切です。外来での徹底した管理や保健指導が、早産や低出生体重児の原因となる妊娠中毒症を予防するのです。

妊娠中毒症や前置胎盤は、妊娠週数がすすむにつれて増悪することが多いので、胎児に与える影響を考慮して、医学的早産の方針をとることが多く、平成9年は22例の早産のうち、9例がそれに該当します。また、胎児切迫仮死（心音の下降）のため、早期に帝王切開術した例が3例あり、前期破水後より陣痛発来し分娩となった例は7例のみでした。

450件前後の分娩の経過中には、一時的に呼吸障害を呈する新生児がいますが、2床の未熟児管理体制しかない当科では、3～4名の集中治療児を抱えるときも多く、これからの周産期管理には、益々ハード面やソフト面においても充実したものが求められることでしょう。

当院の抱える周産期エリア内には、低出生体重児が多いことを指摘されるところですが、平成9年の早産児の出生は32～36週で22件あり、週数列による分類では

32週　1例
33週　1例
34週　2例（1例は双胎）
35週　5例
36週　12例

となっており、早産児の死亡は0でした。

早産の原因別では、前置胎盤前期破水が主で、DM合併BEL（足位）常位胎盤早期剥離や妊娠中毒症等による胎児切迫仮死等です。

低出生体重児（2500㌘以下）の出生は33名（7.4%）で全国平均並（平成7年厚生の指標より）地域別では名寄市内16名（2組の双胎を含む）市外17名でした。このうち早産児は10名（1組の双胎を含む）で、9例が入院治療中であったり、検診時に異常が発見され、緊急処置を受けています。

早産ではないのに2500㌘以下の低出生体重児は23名いました。周産期死亡は39週の子宮内胎

児死亡が１件あり、死亡の原因となる著明な所見は母体や、胎児側にも認められず、原因は不明でした。

４月以来不在であった助産婦の外来への配置は、８月から１名の産休明けの助産婦が決まり、看護婦さんの協力を得ながら、現在保健指導にあたっています。

個々の生活様式や、生活態度に適した保健指導がなされるように、問診用紙でのチェック体制をとり、受診毎に指導内容を記入した用紙は、入院時には妊娠中における経過が分かり、病棟としては、患者の情報を短時間で知ることが出来るようになり、特に、緊急時には重要な情報源となっています。

妊娠中から分娩へ、そして産褥期間を経て小児の育児支援へと、私たちの目指す看護は正にプライマリーケアーにあります。

外来での関わりが、早産を引き起こす妊娠中毒症の予防や、正しい妊娠中の摂生の理解を深め自己管理する事の意味と、意識を高める啓蒙となることを期待してやみません。

平成９年　月別分娩形態

月	出生数	分娩数	帝切数		分娩時間			帝切時間			異常分娩	子宮内胎児死亡数
				%	深	日	準	深	日	準		
1	31	31	8		9	11	11	2	4	2	10　吸引分娩 2	IUFD　1名　16週2
2	23	24	3		6	12	6	0	2	1	4　吸引分娩 1	
3	35	35	5		10	15	10	2	2	1	9　吸引分娩 3　BEL 1	
4	36	36	8		13	9	14	0	4	4	8	
5	44	45	5		12	18	15	1	4	0	6　BEL 1	IUFD　1名　15週4
6	35	36	4		8	21	7	1	3	0	5　吸引分娩 1	IUFD　1名　16週3
7	38	39	5		9	17	13	0	4	1	6　吸引分娩 1	IUFD　1名　18週4
8	38	38	3		11	15	12	0	2	1	4　吸引分娩 1	
9	52	52	9		6	27	19	0	7	2	10　BEL 1	
10	39	40	3		13	22	5	0	3	0	4　吸引分娩 1	流産　1名　16週4
11	29	30	3		9	13	8	0	3	0	4　吸引分娩 1	IUFD　1名　39週1
12	39	39	4		11	19	9	0	3	1	6　吸引分娩 2	
合計	439	445	60	13、6	117	199	129	6	41	13		
					26.2 (%)	44.7 (%)	28.9 (%)					

精神科第一病棟この一年

精神科第一病棟看護長　　浜　田　　譲

精神科第一病棟スタッフは、この一年、数名の交替等により、12月現在26名（看護士８名、看護婦15名、助手３名）体制で日々精神科患者のケアに全力を注いでいる。年間の入院患者数は、66名と極めてすくなく、１ケ月平均5.5名、退院患者は72名で１ケ月平均６名である。